

令和 6 年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人
たてやま・海辺の鑑定団

1. 事業の成果

50 年後の地球環境、我が国の自然環境、地域の自然環境、沖ノ島及び周辺エリアの自然環境を見据え行動する。そのための出来ること「自然環境を守り・伝える」ことを持続可能な方法で行い、未来を生きる子供たちのための地域の安全安心な自然環境と生活環境を実現に寄与することを目指した。

(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業

①自然体験活動

◆沖ノ島定期開催活動

- ・リーダーができる人材の育成を行い、年間稼働率を上げることを目指し実施した 105 人が参加した。
- ・じやらん遊び体験予約との連携を継続し上記参加者のうち 16 人が参加した。

◆スノーケリング活動

- ・夏季は通期で実施することができた。809 人が参加した。
- ・沖ノ島スノーケリングの運営マニュアルを見直し実施した。
- ・活動備品などの検討を行い、メーカー AQA と連携した。地域の子供たち向けのスノーケリングイベントを 7 月 25 日実施し 38 人が参加した。
- ・事前練習会を 6 月から行い安全な活動に努めた。危機管理研修を 7 月 7 日実施した。

◆クラフト体験(イベント含)

- ・4 月 28 日、イオンタウン主催のイベントに出展し、約 20 人が参加した。

②募集企画活動

◆つり体験

- ・館山夕日桟橋ちょい投げ釣り大会は、桟橋が拡張工事の為昨年度に引き続き延期となった。
- ・館山港 UMI プロジェクト検討会との連携で釣り振興に関して協働した。

③環境学習体験活動

◆修学旅行・体験学習など沖ノ島など団体受け入れに 8009 人が参加した。

- ・コーディネートのスキルアップと他団体 (MAPS など) との連携を模索した。
- ・体験プログラムを他団体 (体験交流協会・館山市観光協会・千葉自然学校・南房総市観光協会・アクションデイ) と連携を行った。
- ・足立区の小学校へのアプローチを行い、上記のうち 27 校 約 2100 人が参加した。
- ・沖ノ島の森の再生活動を内容に盛り込み、環境教育ツール 2021 年度版ツール (リーフレット) を活用し 2 団体、約 120 人が参加した。
- ・ウミホタル観察団体受け入れを、3 団体 154 人に実施した。

(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業

①環境保全活動（実践）アマモ場と森の再生

◆アマモ場再生の実践活動を、館山港 UMI プロジェクト検討会 (東京 UMI プロジェクト) による企業連携を開始した。(東亜建設工業株式会社・千葉支店・房州ガス株式会社) また、学校連携も進んだ。(千葉県立安房高等学校・南房総市立富山学園富山中学校)

- ・アマモの移植に関しては、館山港 UMI プロジェクト検討会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団と協働し、5 回 4 か所のアマモ移植を行った。沖ノ島 2 回 (一般と館山総合高等学校) 館山市那古 (安房高等学校)

南房総市岩井海岸（富山中学校） 野布良港（安房高等学校） 館山港（当方中心）総延べ206人 延べ約870株を移植した。若者たちの学びの場・活躍の場となった。しかしながらことごとく定着には至らなかった。

・2023年まで花枝採集地としていた鋸南町野布良のアマモが消失してしまった。（高水温と砂移動と推測） 試験的に安房高校「あわわ」と1年生に約240人にて、木更津金田にてアマモ観察と花枝採集を行い、金田漁港内で熟成を行った。（2025以降の育成を行っている）

・南房総市立富山学園、富山中学校では、岩井海岸でのアマモ場再生に向けての取り組みに協力した。

・漁協、釣り具メーカー（ヤマリア）と連携しアマモ場再生に関わるアオリイカ産卵床の設置を5月に行い産卵を確認した。

・アマモ場再生のための定点調査（外部委託通年）を6回行った。

◆JEANクリーンアップ海岸ゴミ調査清掃を10月27日に実施し15人が参加した。

◆森の再生活動

・沖ノ島森再生活動を2024年4月～2025年3月までにNPO地球守・一般財団法人セブン-イレブン記念財団と連携し13回実施した。台風被災での倒木処理は、徐々に目途が見えてきている。この活動では高校生「あわわ」含む延べ人数で237人が参加し学び活躍した。

◆沖ノ島から一番近い河川蟹田川流域モデルエリアとして再生活動の可能性を模索した。

・5月25日に里山の夜の自然観察会を実施し、約20人が参加した。ゲンジボタルとヘイケボタルの生息を確認した。

・2024年1月13日に里山の散策を実施し、安房高校生含む約16人が参加した。「森里川海」の繋がりを理解する活動となった。今後地区の活動に協力していく。

◆環境保全活動のビジネス化 ローカル環境ビジネスの育成

・株式会社アイフォレスト・合同会社アルコ・東京環境工科専門学校らと、11月7日に蟹田川周辺の下地調査を行いボランタリークリエイティブ出のための準備を開始した。

・企業との連携にて、デル・テクノロジーズ株式会社との活動を継続した。

◆認定NPOの可能性

・各保全活動はその目的に関する寄付金を募り、コングラントも活用し延べ118件 541,650円の寄付が集まった。認定NPOへの可能性は継続する

②環境啓発活動

◆ガイドブック（海辺の生き物語）を約107冊活用した。

◆夏季ビザーセンター パークレンジャー活動を7.8月継続した。

・海水浴期間中のゴミ拾いタイムの設定し継続実施し効果をあげた。

◆地域啓発イベントの実施

・2月9日に地域環境イベント「第6回里海博2025」を地域の商業施設を会場に開催した。千葉県立安房高校はプロジェクト「あわわ」を中心にボランティアスタッフ・登壇者と準備から含め延べ約44人、千葉県立安房拓心高等学校が4名、南房総市立富山中学校は10名が登壇者などで直接関わり、館山市立館山中学校は、展示コーナーなどで参画し「発言の場」として実践できた。イベント参加者は、記名受付にて259名、オンライン参加で約170件が参加。現状や課題を共有した。

◆2024年度 館山市委託事業、沖ノ島環境保全協力金事業実施

・千葉県立安房高等学校の生徒が中心となって36名が参加した。館山市委託事業沖ノ島環境保全協力金では約1396万円の協力得ることができた。（協力金は市税に）

◆指導者養成講座を実施

・2月15日、16日、22日にて、環境人材育成のため「海辺の達人養成講座 in 南房総・館山」を開催し、6名の参加となつたがうみかんメイツに2名が参加した。

- ◆地域向け体験教室「沖ノ島探検隊」など 館山市中央公民館（行政）と連携して実施した。
- ◆地域向け体験教室「設立 20 周年ありがとうイベント自然を学べる体験ゲーム謎解きミステリー 無人島の七つの謎」を実施 80 名が参加した。

◆YouTube チャンネル

- ・映像コンテンツを、年間 15 本作成し、YouTube チャンネルにて公開し 3 月までに 1076 人が登録し、目標に到達し、活用継続している。

③調査研究活動

- ・5 月に大阪府阪南市への視察を当方 2 名と館山市（副市長・市議会議員同行）して実施した。阪南市の 3 役とも接見しローカル SDGs や環境教育についての先進的な取り組みを直接見ることが出来た。
- ・11 月には、高知県大月町柏島に、当方 7 名（他助成も活用し合計 12 名）で視察した。そこでは、稀有な自然環境にも関わらず課題があり、実際の現場と取り組みについて共有することが出来た。

- 当団体の活動が 20 周年を迎える記念行事としていくつかの事業に関連付けた。
(11 月 23 日に地域内外のお世話になった方にお声がけをしてレセプションを行った)

2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者的人数	受益対象者の範囲及び人数
(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業	①自然体験活動 ・沖ノ島定期開催 ・スノーケリング体験 ・クラフト体験	通年 夏季 4/29	沖ノ島 沖ノ島 イオンタウン	20 人 20 人 3 人	地域住民および来訪者 105 人 809 人 20 人
	②環境学習体験	通年	沖ノ島など	160 人	学校関係、教育団体等 8009 人
(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業	①環境保全活動 ・アマモ場再生活動 ・海岸清掃(JEAN) ・森の再生活動	通年 11 月 通年	沖ノ島周辺 沖ノ島 沖ノ島	100 人 10 人 100 人	地域住民、来訪者 不特定 約 206 人 約 15 人 約 294 人
	②環境啓発活動 ・ガイドブック（海辺の生き物語） ・第 5 回里海博 2024 ・沖ノ島環境保全協力金 ・里山モデル地区調査 ・指導者養成講座 ・YouTube チャンネル	通年 2 月 7 月 8 月 5 月、1 月 2 月 通年	地域の書店 観光施設 オンライン 沖ノ島周辺 館山市など 沖ノ島・大房 オンライン	10 人 100 人 36 人 10 人 各 3 人	地域住民、来訪者 不特定 多数 107 冊活用 リアル参加 270 人、オンライン約 170 人 沖ノ島来訪者不特定 地域住民 約 36 人 地域内外延べ 6 人 1076 名登録 不特定 多数
	③調査研究 ・大阪阪南市 ・高知県大月町柏島	5 月 11 月	阪南市 柏島	2 人 12 人	団体メンバー 等